

平成30年度 学 校 評 価 報 告

草加市立八幡小学校
(平成31年2月12日作成)

1 学校教育目標	
勉強する子 良い子 強い子	
2 重点目標	3 前年度の成果と課題 ○成果 ●課題
・やる気で勉強する子の育成 ・はっきりあいさつする子の育成 ・たくさん運動する子の育成	○校長の経営方針が教職員に浸透し、重点目標を全教職員が共通理解のもと、共通行動に及んだことで、児童の学力、体力、規律ある態度の向上が図られた。 ○算数科の授業のみならず、多くの教科等においてICT機器の活用を進め、児童の学習意欲を高めるとともに、学習内容の理解に大きく寄与することができた。 ●通常学級における特別な支援を要する児童に対し、各種支援員等を配置したが、担任の負担を大きく減らすには至らなかった。

4 評価表 ※評価基準 [A：十分達成している B：おおむね達成している C：やや不十分である D：不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題 □解決策
I 学校運営に関するもの	①組織運営	・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等	A	○学校経営方針を明確にし、児童にもより浸透させることができた。 ●校務分掌の見直しと主任等の適材適所の命課。
	②研究・研修	・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成	A	○研究主任を中心に組織的な研究を進めることができ、授業改善を図ることができた。 ○初任者研修が有効に実施され、人材育成に資することができた。 ●さらなる組織運営の見直し、2年次の研究の充実を図る。
	③保健・安全管理	・保健計画・安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用	A	○定期の安全点検及び日頃の巡視等で施設設備を管理し、瑕疵による事故は皆無であった。 ●定期的及び適時の安全指導を行い、交通事故、不審者による事故を防ぐ。
	④情報管理・施設設備管理	・個人情報の管理・保護 ・施設設備の管理と有効活用	A	○個人情報の取り扱いを全職員で確認し、情報管理を徹底できた。 ○ICT機器の活用ができた。 ●ICT機器のさらなる有効な活用を図る。
	⑤地域との連携 開かれた学校	・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校評議員制度の活用 ・地域・校種間連携 ・PTA活動の活性化	A	○学校だよりの地域等への配布、ホームページの計画的更新等で地域等への情報発信ができた。 ●学校応援団の計画的な活用を図る。
	⑥幼保小連携 小中一貫教育	・目指す子ども像の実現に向けた取組 ・教育課程の編成 ・一貫教育推進のための組織づくり	A	○川柳中学校区の教員合同研修会等が開催され、連携教員の活用等で小中一貫教育を継続させた。 ●幼稚園、保育園とのさらなる連携を図り、一貫教育の充実につなげていく。
II 教育	①教育目標・教育計画	・教育課程の編成、実施 ・教育計画の作成 ・教育活動の評価 ・目標、方針の周知 ・授業時数の配当、確保	A	○十分な授業の量的確保をし、年間指導計画が生かされる教育課程が実施された。 ○3学期制の定着を図ることができた。 ●教育活動の評価をさらに充実させる。

活動 に関するもの	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題 □解決策
	②教科指導	・指導計画の立案 ・わかる授業づくり ・指導方法の工夫と改善 ・評価、評定の工夫 ・外部人材の活用	A	○「草加っ子の学びを支える授業の5か条」を意識した授業改善に努めた。 ○ICT機器が活用され、児童の学習意欲の喚起、学習内容の理解に役立った。 ●指導と評価の一体化について、共通理解を図る。
	③道徳教育	・全体計画の作成 ・各教科との関連 ・道徳的実践力の育成 ・家庭、地域社会との連携 ・命の教育と推進	B	○授業時数の量的確保がされた。 ○指導過程が定着し、児童の道徳的心情を育むことに努めた。 ●評価についてさらに研修を深める。
	④外国語活動	・指導計画の立案 ・指導方法の改善と工夫 ・評価、評定の工夫 ・各教科、道徳教育との関連 ・中学校との連携	A	○外国語活動の実践的な研修がなされ、担任がALTと楽しく授業を行い、コミュニケーションを図る素地の育成ができた。 ●担任主導の授業展開のさらなる充実を目指す。
	⑤特別活動	・指導計画の立案 ・学級活動、学級経営 ・学校行事 ・児童会活動	A	○行事の精選がなされ、指導計画の見直しが行なわれた ●話し合い活動等、学級活動のさらなる充実を図る必要がある。
	⑥「総合的な学習の時間」の指導	・指導計画の立案 ・指導内容の充実 ・指導方法の工夫と改善 ・評価の工夫	B	○各学年が、問題解決や探究活動に主体的に取り組む、主体的な授業を展開した。 ●「学ぼう！ふるさと草加」の充実を図る。
	⑦生徒指導	・組織的な生徒指導 ・問題行動への対処 ・教育相談、児童理解 ・いじめ防止対策 ・保護者、地域、諸機関との連携	A	○生活目標の重点化により、基本的生活習慣が向上した。 ○教員の意識が変わり、いじめの認知件数は増加したが、丁寧な指導により解決を図っている。 ●生徒指導上の問題に対する意識をより高く保ち、より丁寧な初期対応をしていく。
	⑧キャリア教育	・計画の立案 ・指導内容の充実 ・中学校との連携 ・啓発的経験の充実 ・家庭、地域との連携強化	B	○社会、学級活動、総合的な学習の時間、学級での係活動等で職業的自立に必要な基盤となる能力や態度を育成を図った。 ●年間指導計画への位置づけを明確にする。
	⑨特別支援教育	・個別の指導計画、支援計画 ・指導方法の工夫と改善 ・通常学級との交流 ・諸機関との連携 ・校内支援体制の整備	A	○コーディネーターを中心に、校内委員会等が充実し、研修や交流教育を通して特別支援教育への理解が深まり、児童への日々の指導に向上した。 ○ユニバーサルデザインが進められ、教員の意識向上が図られた。 ●通常学級に在籍する特別な支援を要する児童へのよりよい支援を考えていく。
	⑩学校図書館教育	・指導計画、支援計画の作成 ・図書館補助員の活用 ・諸機関との連携 ・図書館の整備 ・図書館利用の工夫	A	○読書20冊の重点目標に掲げ、図書主任、図書館補助員、各担任の働きかけにより90%超の児童が達成した。 ●図書室の図書貸し出し数さらなる増加を目指す。
	⑪情報教育	・教育計画の作成 ・校内研修の充実 ・ICT機器の積極的な活用 ・情報モラル教育の推進	A	○大型電子黒板やタブレット端末を積極的に授業に用いて、わかる、楽しい授業の展開の一端を担った。 ●ICT機器使用環境をさらに向上させる

	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題 □解決策
	⑫人権教育	・全体計画の策定 ・各教科との関連 ・人権感覚の育成 ・校内研修の充実	A	○人権問題を自分の問題として捉え、人権問題と自分との関わりをしっかりと見つめるよう、人権作文や標語、「めぐみ」の視聴に取り組んだ。 ●人の喜び・怒り・悲しみに共感し、共に考えることができる児童を育成する。
Ⅲ その他の課題	①学力向上への取組	・組織的な学力向上 ・校内研修の充実	B	○全国、県の学力調査で、ほとんどが市の平均を上回り、全学調のB問題の正答率が向上した。 ●市学調の成果が思うように伸びなかったので、結果を分析し、対策を講じる。
	②体力の向上	・授業の工夫改善 ・年間指導計画の改善 ・授業外活動の推進	B	○重点目標としているグリーンコース100周は80%超が達成した。 ●新体力テストも意識した授業の展開に努める。
	③規律ある態度の向上	・学校生活での取組 ・家庭との連携	B	○「はっきりあいさつ」に力点を置き、みはるくん(児童の見守り地域組織)にもあいさつをする児童が増えた。 ●「早寝、早起き、朝ご飯」等を保護者に啓発し、児童の基本的生活の向上に努める。

5 総合評価（学校関係者評価を含む）

- ・校長の経営方針、重点目標を全教職員が共通理解のもと、共通行動に及んだことで、児童の学力、体力、規律ある態度の向上が図られた。
- ・「草加っ子の学びを支える授業の5か条」を意識した授業を展開するとともに、ICT機器の活用を進め、児童の学習意欲を高め、学習内容の理解に寄与することができた。
- ・通常学級における特別な支援を要する児童に対し、各種支援員等を重点的に配置して教育活動を進め、担任の負担を軽減した。

6 来年度の改善策

- ・週行事予定を改めたり、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に努め、学力向上を図っていく。
- ・特別の教科 道徳の評価についてさらに研修を進めていく。
- ・新体力テストの向上に向けて授業体育における継続した方策を講じる。
- ・川柳中学校との一貫教育は継続できたが、幼稚園、保育園との連携をさらに強化することで、一貫教育を発展させていく。